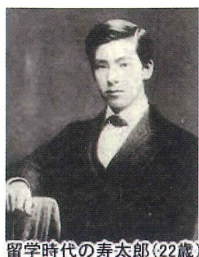


NEWS LETTER



留学時代の寿太郎(22歳)

CONTENTS

- ・会長挨拶 ・2020年度活動計画
- ・鳥居への疑問と榊伐採の思い出
- ・2019年度活動報告 ・終焉の地を訪ねて
- ・宮崎産業経営大学シンポジウムを聴講して



新たな一步、さらなる前進!

小村寿太郎侯東京奉賛会は、2012(平成24)年12月12日に発足し、今年で8年目に入っているところでありますが、在京宮崎県人会などで徐々にその存在を認められつつあります。

これまで、講演会、セミナー、会報の発行、親睦ツアー、墓清掃・参拝、めざせ小村寿太郎国際塾(日南市)の生徒の受け入れなどを定例行事として活動して参りましたが、今年は『新たな事業』や、親しみの持てる名前への『当会の名称変更』にも取り組みたいと思っております。

ところで、昨年末、ミハイル・ガルージン駐日ロシア大使の講演会があり、懇親会の席上、大使と話をする機会がありました。ポーツマス条約について、小村寿太郎とウィットとの間で丁々発止の交渉があったこと、また、その3年後、駐英大使を退任し、帰国の途上、態々サンクトペテルブルクのウィットを訪ねて旧交を温め、別れ際、小村寿太郎の後姿をウィットがずうっと見送っていたという情景を話し、これこそラグビーでいう、外交フィールドにおけるノーサイドではないかと言ったところ、「是非、小村記念館を訪ねたい。」ということになったので、勿論、「ウェルカム!」と約束しました。

また、昨年秋より、諸事情(新型コロナウイルスの影響を含め)で延期されている中西輝政先生の講演会の実施に向け邁進して参ります。

皆さま、日程が決まり次第ご案内致しますので、是非ご参加頂きますようお願い申し上げます。



小村寿太郎侯東京奉賛会 会長 下 直樹 しもおろ なおき

小村寿太郎侯東京奉賛会特別講演

『小村外交と21世紀の日本』

～米中露三大国と日本の宿命～



講師: 中西 輝政(京都大学名誉教授 国際政治学者)

1947年大阪生まれ 京都大学法学部卒

日程: 2020年夏以降 開催予定

【2020年度 活動予定】

5月 総会・懇親会
7月 基本セミナー
9月 親睦会ツアー
11月26日 墓前祭

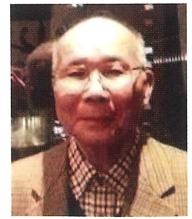
* 青山墓掃除日程 *

(12 時 とうや集合)
5月31日(日)
7月26日(日)
9月27日(日)
11月26日(木)
3月28日(日)

鳥居への疑問と榊伐採の思い出

～老いて枯れ果てた榊に…、無念さが身に沁みてしばし瞑目～

小村寿太郎侯東京奉賛会会員 本田 武次



青山墓地の小村寿太郎侯の墓は、特別に異彩を放っている墓であります。

広大な青山墓地には様々な様式の墓石が建てられていますが、鳥居を有する墓は小村侯の墓以外には探しても見当たらないほど珍しい墓なのです。

私は清掃奉仕作業に行く度に、どうしてこの様な鳥居を有する形式に造られたのか疑問を持っている者の一人でした。

乃木希典・陸軍大將は乃木神社に奉られ、東郷平八郎・海軍大將は東郷神社に奉られています。日露戦争の講和会議で偉大な外交交渉を成し遂げて凱旋した小村寿太郎・全権大使にも小村神社を望んだ政治家や外務官僚が存在していただろうと、小村神社を造って奉るのが諸般の事情で無理なら、せめて青山の墓地に神社の象徴である鳥居を建て、神格化して小村寿太郎侯を祀る事が出来ないだろうかと、密かに計画を練って鳥居を持った墓を造って小村寿太郎侯に報いたのではないかと短絡な私は勝手に想像しています。

奉賛会・会員の皆様は、鳥居を持った墓地にどのような感想をお持ちでしょうか。

また、埋葬当時に親族や関係者によって小村侯の墓前に植栽された榊の神木は、数十年の歳月を経て大木に成長したのです。榊は今日まで小村侯一族の苔むした墓石群に寄り添いながら風雪に耐えて、雨の日も嵐の日も緑の葉を輝かせて墓所の見護り役を務めてくれました。

墓が出来て以来、数十年に亘り日本は元より、外国の高官や政治家、それに小村侯を信奉する多くの国民が参拝に訪問したのです。榊の老木は清々しい姿でこれらの参拝者を出迎えては見送り、墓地に神聖な空間と憩いの木陰を提供してくれました。

平成最後の31年3月31日の清掃奉仕の日に、数本有る榊の中の二本の老木が樹齢を全うして枯れているのを確認しました。枯れた樹皮にはひび割れが生じ、皮はめくれて根元に散乱し、哀れな姿をさらして、参加した会員一同の心を痛めました。早速、下笠会長の指示で金丸事務局長を通じて、私達に枯れた榊伐採の相談が有りました。

以前、椎の木の伐採を行った経験から、伐採経験豊かな鬼束氏、古澤氏、運搬処分に精通されている向高氏に相談して5月26日に伐採作業を実行する事に決めて当日は散会。

令和元年5月26日、伐採当日の参加者は下笠会長はじめ郡司氏、鬼束義美氏、古澤氏、向高氏、松清氏、女性軍の御手洗さん、吉田さん、林さんの協力を得て猛暑の中、大汗をかき、冷水を飲みながら作業に熱中しました。



伐採作業に着手する際には、永年に亘り参拝者と御霊を護ってくれ、老いて枯れ果てた榊に直面し、鋸とドリルの刃を入れねばならぬ無念さが身に沁みてしばし瞑目しました。成長の遅い榊は、幹の直径が25cmに成長するのに100年を要する程ですから年輪の密度が緻密で硬い樹木です。伐採作業はロープで固定して他の石塔に被害が無い様に配慮しました。

鋸と電動ドリルを併用して伐採作業を慎重に進めましたが、枯れ木で乾燥していたので硬さが増して伐り倒すのに素人の高齢者集団は大いに苦労しました。

倒した木を側道に運び、樹皮をきれいに剥がしたところ、さすがに神に仕える榊の木だけあって皮を剥いだ木肌は若い女性の肌を思わせる乳白色で、潤いに充ちて光沢の有る見事な幹肌で、廃棄処分するのが惜しいほど美しい枯れ木の姿でした。この美肌の木を短く切断する作業には御手洗さん、吉田さん、林さんの三人の女性が猛暑の中、疲労を物ともせず、懸命に切りそろえてくれました。榊も喜んだ事でしょう。榊伐採には無念な思いをしましたが尊敬する小村侯墓地の整備作業の一端を担う事が出来て、人生の良き思い出として私の心に永く刻まれる事になりました。この作業に携われる幸運を与えて頂いた奉賛会の温かい心遣いにも深く感謝しています。

今後も一隅を照らし、一隅に貢献する精神を磨いて同志の皆様と共に青山の墓地清掃に励みたいと思っています。

清掃作業で汗をかいた後に大勢の参加者とライオン食堂に行き、昼食前に飲む生ビールの美味さは奉仕活動の満足感とも相俟って格別であります。

この奉仕活動に若い後継者が増え、墓地の美化が保たれる事を切に願っています。

(※本田武次氏は、2018年、2019年の二度の伐採作業に率先して貢献してくださいました。)

長瀬親睦ツアー 令和元年9月6日(金)開催しました!

好天に恵まれ、西武池袋駅9:30発、特急ちちぶ(ラビュー)に乗りし、参加者24人で長瀬へ行きました。
川下り、バーベキューと楽しみ、帰路ではSLの終点熊谷まで縁深いラグビー仕様に乗りしそれぞれの帰途へ。
満足の晩夏の日を過ごし、次回の参考にとアンケートも実施しました。今年も乞うご期待!



長瀬のゆるき流れを 川下る
夏の終わりに 涼を求めて
懐かしく 蒸気機関車 乗り合わせ
昭和の話 弾む年齢
井上 榮子

令和元年7月13日(土)

長友 禎治 氏(日南市役所生涯学習課 文化財専門担当官)を講師に、
『振徳堂教育の歴史』～安井息軒から小村寿太郎までとその後の飢肥藩文教史～
のセミナーをJPビル3階会議室にて開催いたしました。
飢肥城のシュミレーション画像も見せてくださり、参加者58名の充実したセミナーでした。



2019年11月23日(土)

今年も、『小村国際塾』のこどもたち10名が上京しました。
冷たい小雨降る中のお墓参拝でしたが、草むしりや榊を供えたりと率先してお手伝いを
してくださいました。そして引率の日南市役所の山口悠希さんは、なんと1期生
でした。『小村国際塾』の継続は宝なりですね。

「終焉の地を訪ねて」



侯爵小村寿太郎ハ日南市飢肥の生マレ
ナリ、一九〇五年米國ポーツマス
市ニ於テ日本國全權大使トシテ日露
講和条約ヲ締結スコノ縁ヲ以テ同
市ハ一九八五年姉妹都市ノ盟約ヲ結
ビ永遠ノ友好ヲ約ス
コノ侯終焉ノ地ニ小碑ヲ建立シ記念
トス
一九八七年十一月吉辰
小村寿太郎侯奉賛会

石碑の裏の文字

神奈川県立近代美術館葉山のむかひの砂利道を入ると、
屋敷内に小村寿太郎終焉の地の碑。
退任後、亡くなるまでの3ヶ月の療養生活を過ごしました。
碑は借家の門脇に立っています。

小村寿太郎侯東京奉賛会会員 林 恵子

令和元年六月下旬、郡司副会長に案内していただき、
寿太郎侯終焉の地、葉山別邸を5人で訪ねて来ました。
ちょうどあじさいが見頃で、至る所に咲いていました。
海沿いの車道から山手に続く細い坂道を登り、草花や大
木に包まれて歩を進めると古い平家があり、時が止まっ
たようなその場所には、小村侯の行き来を想像させる風
景が今も残されていました。

玄関手前に上品な黄土色の大きな石碑が置かれ、小
村侯の名が黒く刻まれていました。

重さ1トンを越すその石が 故郷日南から運ばれたと知
って、とても感動しました。昭和62年、資料では除幕式
に、葉山町長をはじめ40名の方々が参加されたとの事。
近くには御用邸もあり、海辺のカフェではひと休みもでき
ます。

みなさまも、一度訪ねてみられたら如何でしょうか。

宮崎産業経営大学シンポジウム『小村寿太郎と日英同盟』を聴講して

日南市大堂津出身 吉田千草

2019年7月14日、念願が叶い宮崎産業経営大学のオープンキャンパスのシンポジウム『小村寿太郎と日英同盟』に参加しました。甲斐睦教先生には、2018年9月8日の小村寿太郎東京奉賛会講演会『日英同盟と小村寿太郎』の講師をお願いしてからのご縁もあり、またシンポジウムの下調べに、2019年5月18日～19日に高校生4人と宮崎産経大学生2人を率い、もう一人の先生と上京されました。5月18日は日比谷焼き討ち事件があった日比谷公園での研修と、赤坂迎賓館での研修を済まされてから青山霊園に来られ、寿太郎会会員と一緒に参拝した後、青山町会会館で懇談しました。成長盛りの学年さん達は、用意したおやつに触れることなく真面目な態度でした。その時から私はシンポジウムに是非とも参加したいと思いました。翌日は浦賀と横須賀での研修後、宮崎へ帰られました。

御一行は日南市も訪問されており、小村寿太郎記念館・振徳堂・生誕地、お墓参りに行って研修されました。6人の学年さん達は2019年2月から月一回勉強会を開き、半年かけて小村さんの功績を調査・研究された結果をシンポジウムで発表された訳ですが、実に上手で、いい具合にまとまったシンポジウムでした。

シンポジウムの冒頭、甲斐先生が「宮崎県出身の『小村寿太郎さん』と申されて、日南出身、日南出身とばかり言っていた私は、日南じゃない「宮崎県の偉人なんだ。」と考えを改めました。

シンポジウムの進行は、宮崎日日新聞・編集局の杉尾守さんが司会をされ、生徒を指名して発表させる形でした。杉尾さんは小村さんの事と当時の状況をよくご存知の方で、話の進め方がうまく、学生さん達からちゃんと聞き出されていました。学生さん達は小村さんのこと、なぜ日英同盟を結んだのかをよく調べていました。そして『日英同盟を締結したお陰で、英国は日本が外国から軍用品を買う貨幣を確保してくれたし、ロシアが購入予定だった戦艦の情報を日本にくれたり、様々な支援をしてくれ、ロシア艦隊の情報を日本に伝えてくれたからこそ、日露戦争の勝利となった。』と発表されました。

内容が硬いものなので笑う場面はなく、東京研修に来られたときと同じく真面目な態度の学年さん達でしたが、言葉はハッキリと明るく声を出されていました。会場の200人もの高校生は静かに聞き入ってらっしゃいました。殆どの方が小村寿太郎さんのことをご存知なかったと思いますので、初めて聞かれたことばかりで、大変勉強になったとお感じになられたと思います。

発表の中で印象に残っているのは、串間市出身の日南高校の生徒さんが『日南の人は小村寿太郎をもっと知っていい』と言われたことです。やはりと思いました。地元では日露戦争で賠償金が取れなかったから、小村さんが悪者になり、正しく伝わっていませんでした。大堂津出身の私も親も小村さんについて教わりませんでした。現在では正しく認識され小村さんが評価されていますが、充分に伝わっていませんので、我々小村寿太郎侯東京奉賛会は努力しております。

それともう一つ『現在の北方領土問題は小村さんなら解決できるのではないか。小村さんのように周りに振り回されるのではなく、客観的に状況を見ないといけないと思った』と大学生が発表されたことでした。

また、シンポジウムの翌日にNHK総合テレビで『永遠のニシパ 北海道と名付けた男 松浦武四郎』のドラマを見ました。シンポジウムの翌日だったので小村さんの引き合わせを感じました。内容は江戸時代の終わり、1845年から1858年までの間に『ロシアのものになってしまう』との危機感から蝦夷地を6回、何ヶ月も滞在し調査した。蝦夷地を治めていた松前藩は商人と結託しアイヌ人をこき使い、利権をむさぼっていた。松浦は小村さんの精神と同じものを持っていた。当時、樺太は北蝦夷地と呼ばれていた。ドラマの始まりに『樺太はロシアとの国境はなかった』とナレーターは言った。幕末、明治維新の混乱の中、あたふたしていたから樺太はロシアに取られてしまった。『松浦は明治維新の英雄ではない。しかし松浦なくしては、今の北海道はない』とナレーターが語り、ドラマは終わった。当時、小村さんのように客観的に物事を見た人がいた。

小村さんはポーツマス条約で南樺太を取り返してくれた。

小村さんなくしては、こんにちの日本はないと全国民に知ってもらいたい。



小村寿太郎侯東京奉賛会

〒130-0026 東京都墨田区緑 3-9-3 電話:03-3846-9030 FAX:03-6659-3084

E-mail: kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp 振込先: ゆうちょ銀行 店番 008 普通預金口座 1191854 名義 小村寿太郎侯東京奉賛会